

10月19日(金) 19:00 - 20:30

1. 佐藤 浩一 SATO Koichi | Chaac | ライブ
2. 八木澤 桂介 YAGISAWA Keisuke | Sense of the edge | 映像作品
3. 小室 萌佳 KOMURO Moeka | Relations Act III : "Zola" | 映像作品
4. 松本 祐一 MATSUMOTO Yuichi | アンケート・アート | ライブ
5. 松本 祐一 MATSUMOTO Yuichi | Composition in Retrospect for Toy Piano | ライブ

10月20日(土) 13:00 - 14:30

1. 西原 尚 NISHIHARA Nao | 西原尚音楽公演 | ライブ
2. 宇都 縁 UTO yukari | extended movement | パフォーマンス
3. 佐藤 浩一 SATO Koichi | Chaac | ライブ
4. 八木澤 桂介 YAGISAWA Keisuke | Sense of the edge | 映像作品
5. 小室 萌佳 KOMURO Moeka | Relations Act III : "Zola" | 映像作品
6. 松本 祐一 MATSUMOTO Yuichi | アンケート・アート | ライブ

Chaac / 佐藤 浩一

水の録音をもとに制作した音響作品です。作中で聴こえる殆どの音は、私が熊野を訪れた際に録音した水滴の音から作りしました。岡本太郎は熊野に於いて、「木は水の清冽な変身である」とその印象を著書に記しています。私はそこから水という制約された素材から、様々な音響を導き出すアイデアへと至りました。一つの種が適応拡散し、多種多様な形態へと進化していくように、水は変身を繰り返します。

Sense of the edge / 八木澤 桂介

この作品は、植物自体の持つ造形の面白さに触発され制作した映像作品である。使用した音楽の素材には、自分の声や、植物に仕込んだタッチセンサーにより得られた電圧を音(単純なノイズ)に変換し使用している。それらをスペクトラム・エフェクト等を用いて素材を加工した。また、素材より得られたスペクトラム自体をマスクとして様々な要素に適用させることで、対象自ら発せられる情報を「可聴化」することを試みている。映像に於いても植物を素材とし、通常近接して見ることの無い様な接写や、マイクロスコップを用いた200倍の映像を素材として使用している。これは通常我々の脳が「全体性」として認識している対象からその「全体性」を奪い去ることを意図している。そうすることで、細部に潜む構成要素をまじまじと見せつけ、日常では得ることの出来ない視覚性を表現することを目指した。

Relations Act III : "Zola" / 小室 萌佳

自我の死角には1つの部屋が存在し、その中には微細なる虫達が息をひそめている。私達はその部屋を見た事がないけれど彼らはいつもそこから出たがっている。特別な夜にだけ、音もなく小さな羽虫は現れ出て、群れになって移動し、しかし目覚めた時にはいつだって姿をくらましてしまっている。背骨に群がりよる小さき彼らの氾濫を、誰も止める事は出来ない。この映像は、作者自ら撮影した実写のみから構成されている。被写体は、ゼラチン・小麦粉・光源に群がる羽虫・大理石・ヒトの皮膚等。通常の物の世界とは区別される、純粋な「表象」の空間を追求した。

アンケート・アート / 松本 祐一

アンケート・アートとは、様々な問題に対する意見をアンケートによって集め、音楽に変換する方法です。回答のテキストを品詞分解し、品詞の種類により音程を決め、単語の長さを音符の長さとして、メロディを作り出すという、文章の構造に基づいた作曲法です。アンケート回答の文章を分解し、言葉の意味に囚われず文章の構造のみを用いて音楽に抽象化し、テキストとその音楽を提示することによって、その回答は強調され、個々の意見の差異をより顕著に現すことができるのです。人々の意見を使うことによって出来た、現代社会を見つめなおすのに必要な、音楽であると思います。

コンピュータ：松本 祐一 キーボード：岡野 勇仁 (20日のみ)

Composition in Retrospect for Toy Piano / 松本 祐一

トイピアノのために書かれたこの曲はアメリカの作曲家であるジョン・ケージのテキスト「Composition in Retrospect」を用いて作曲され、私の作品である「アンケート・アート」の作曲技法に基づいて書かれています。このケージの文章は一行毎に、M、E、T、H、O、DやI、N、T、E、N、T、I、O、Nの一字が並ぶように単語を選んで作られたものです。ジョン・ケージの彼自身のルールによる文章を用いることによって、「アンケート・アート」の作曲技法に新たな力が与えられました。

トイピアノ：岡野 勇仁

西原尚音楽公演 / 西原 尚

2007年度に廃止された霧笛（霧信号）の音や波に揺れ軋む松島の栈橋の音を聞きながら、ギターの演奏を行います。また音の装置を同時に動かします。こうして音の次元の重層化を行い、私と皆さん、また皆さんの位置の移動を生じさせて、立ち位置と存在の確認を行いたいと思います。もちろん、音と音楽を聞いて頂きたいと思います。

extended movement / 宇都 縁

映像や音加わること、身体の動きに新たな方向性や質感・強弱が与えられる。身体のみでは生まれない、空間的な「動き」を作り出すことを目指した。

パフォーマー：手代木 花野

佐藤 浩一 / 1990年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部先端芸術表現科3年在籍。録音された語り、環境音、生物の声などを用いて電子音響やインスタレーションを制作する。また音楽や口承等の歴史的/社会的機能についても考察し、制作に並行して民俗芸能や宗教儀礼の取材と研究も行う。

八木澤 桂介 / 国立音楽大学音楽デザイン科卒業。作曲を來孝之、コート・リッピ各人に師事。その後、デン・ハーグ王立音楽院ソノロジーコース(オランダ)で研鑽を積み、2011年度より人間の認知をテーマとするVisual Musicの制作を始める。ICMC(International Computer Music Conference)2012入選。現在、東京芸術大学先端芸術表現科修士在籍及び玉川大学芸術学部メディア・アーツ科TA。

小室 萌佳 / 1989年、広島県生まれ。2011年、武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。2012年、東京芸術大学美術研究科大学院修士課程先端芸術表現専攻在学中。

松本 祐一 / 茨城大学工学部電気電子工学科卒業。会社員を経て、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)を卒業。作曲を早川和子、三輪眞弘に師事。アンケートを行い、その回答の文章をコンピュータによって解析し、音楽を生成する「アンケート・アート」が代表作。その他、様々な映像作品に楽曲を提供。第7回SICF南條史生賞受賞、第1回AACサウンドパフォーマンス道場入選、2008年度武満徹作曲賞第1位(審査員スティーブ・ライヒ)、eco japan cup 2008アート部門準グランプリ、第19回芥川作曲賞ノミネート、「フォルマント兄弟のプレゼンテーション道場」佐々木敦セレクション。www.enquete-art.org/

岡野 勇仁 / ブラジル音楽、タンゴ、紙芝居、美術家やダンサーとの共演、フリー・インプロヴィゼーション、クラブミュージック・エレクトロニクスなど境界を越えるピアニストとして類例を見ない多彩な活動を行なう。フランス音楽コンクール第2位。第9回日本室内楽コンクール入選。現代音楽コンクール競奏IV入選。尚美ミュージックカレッジピアノ学科講師。

西原 尚 / 音の研究、音の美術、踊りの音、様々な音楽の録音や音響、新しい楽器の制作、楽器の修理、美術書の翻訳、フィールド・レコーディング、音や音響のレクチャー、工作教室、など、音に関する活動を続けている。音と人間の接点に関心を持ち、音/音楽/美術の領域を跨いで制作と研究と作業を進める。これまで展示した場所は、2012年、アコムギャラリー(神楽坂)、遊工房(善福寺)、東京芸術大学助手展(上野)スコットホールギャラリー(早稲田)。2011年、explosion tokyo(麻布)、横浜トリエンナーレ特別連携企画<新・港村>など。

宇都 縁 / 国立音楽大学在学時より、音・映像・身体を使ったマルチメディアアート作品を制作。「目で音楽を聞くような体感を得る」ということに関心を持ち、かたち・色・動きといった視覚分野の素材を、ひとつの音素材を扱うのと同様の視点で捉え、視覚と聴覚における独自の関係性を探り、作品へと発展させている。2010年ワイマール・パウハウス大学(ドイツ)へ留学。2012年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。

<http://yukariuto.6.ql.bz/jNews.html>

手代木 花野 / 宮城県松島町出身。ダンサー、コンタクトインプロヴァイザー、振付家。CI部副部長。

DanceTheatreLUDENS、勝部ちこ、高野美和子に影響を受ける。'08~'12年C.I.co.メンバーとして活動。カンパニーデラシネラ、MonochromeCircus、MOKK、GRINDER-MAN、笠井勲等の作品に出演。